

100年続く産地を目指して！ 産地まるごとGAP認証！

南郷トマト生産組合 組合長 高木正貴

JA会津よつば 南郷営農経済センター営農課 課長 渡部裕紀

南郷トマト生産組合の概要

「南郷トマト」は、夏から秋に生産されるトマト（夏秋トマト）で、60年を超える栽培の歴史があります。

1962年（昭和37年）、旧南郷村の有志14名がトマト研究会を立ち上げ、50アールの水田転作地で稲作の代替としてトマトの試作を行ったのが「南郷トマト」の始まりです。以来、雨除け栽培方法の導入や共同選果体制の確立、雪室予冷庫の整備など、長年にわたる組織的な取組によってトマトの食味などの品質の安定・向上が図られてきました。

「南郷トマト」の栽培地は、南会津町、只見町、下郷町の3町またがっており、標高が概ね350m～800mの山間地、豪雪地帯として知られている地域です。平地に比べ涼しく、昼夜の気温差も大きいなど、トマトの果実が良好に発育する生産適地となっています。





令和6年8月現在

組合員数102戸（ターン就農者23戸）栽培期間5月～10月末

栽培面積3,011アール

平均年齢 55.1歳（70歳以上が15%）

令和6年度 出荷数量 約2,475 t 販売額約13億5,900万円

JGAP団体認証 全農場取得への道のり

JGAP取組への初期課題

- (1) JGAP認証取得に対する生産者と事務局の間での認識の共有
生産活動における安全性の向上と得られるリターンの説明
及び動機付け

➡ **なぜ必要なのか？ 取得すると何が変わるのか？**

- (2) 継続可能な体制整備

事務局（JA）にGAP専任がない。当管内に前例も知識もない。

➡ **誰がやるのか？ どのように進めるのか？**

初期課題に対する見解（JGAP取得の必要性）

(1) 食品に関する安全性及び生産環境（労働環境・労働安全性及び環境負荷等）への関心は増々高まっている。

→ 持続的農業の実践に寄与する。

(2) (1) の考えを具現化し、第三者から評価、認証を受けることにより、消費者等に自信をもって「南郷トマトの良さ」訴求することが出来る。

(3) (2) の効果により、「選ばれるトマト」として他産地との差別化・ブランディング及び販路拡大が期待される。

→ 全農場（全戸）取得が必須条件

JGAP取得への具体的な行動

- ・ 生産組合総会で全農場取得が承認
平成31年度の臨時総会にて提案協議し、全農場取得を決議。
- ・ 南郷トマトのマニュアル作成
南郷トマトのルールを明示し、わかりやすい農業
- ・ 集団指導会や個別巡回の実施
生産活動に潜むリスクの存在の確認と対処の検討（動機）
販売環境の変化（消費者の安全志向）
事前講習会、現地講習会、帳票研修会、マニュアル説明会、
リスク検討会、救命救急講習 等



顕在化した課題と対応（継続可能な体制整備）

- ・ JGAP認証初期の対応メンバーはJA職員3名（南郷トマト担当）と県職員1名（南郷普及所） 基本的な対応と帳票の作成はこの4名で始まりました。

総会では決議されたものの、どのように進めてよいのか・・・？

ちょうどその頃、「全農GAP取得のコンサル事業」があるとの情報を得て、藁にも縋る思いで依頼。福島県職員と全農福島の全面的なバックアップもあり、少しずつではありますが、GAP取得への道筋が見え始めました。



認証農場の増加

令和元年 31 農場が取得（先発隊として生産組合役員・若手生産者が取得）

令和2年 23 農場が取得

令和3年 8 農場が取得

・
・

順調に取得農場数が増え、南郷トマト生産組合内の
GAPに対する抵抗感が薄らいでいきました。

やり方が見えてきた！！

そう思っていた矢先に・・・



思いがけない既取得生産者からの質問

『なぜ、南郷トマト生産組合はJGAPの認証を取得するの？』

取組前の生産者の発言なら理解はできるものの、既に取り組んでいる生産者からの言葉であったことに大変驚き、落胆したことを覚えています。

我々はJGAP認証への取り組みを再度見直すことにしました。

次第に浮かび上がる問題点

- ・ 初期から携わる生産者の理解度と、後発で取得した生産者間に認識のズレある。
- ・ 様式ややり方が整うにつれ、取り組みが形骸化している。
- ・ 事務局の指導員数が限られているため、取組生産者の数が増えることで指導の密度が薄くなっている。



誰の為のJGAP認証なのか？

誰の為のJGAP認証取得

JAと生産組合役員で協議を重ね、取得済み役員が未取得者のサポートが出来る体制を整備し、事務局が担っていた役割を生産組合に少しずつ振り分けることとした。



具体策

指導が必要な生産者をエリア分けし、担当役員2~3名を貼り付け、倉庫の片付け方、記帳の仕方、効率的な農場運営についての指導を実施。

取得に抵抗を感じている生産者への個別説明

特に新規に取り組む生産者の農場へは重点的に指導。

研修生（研修後新規就農予定者）にも説明会等に参加し、予備知識の習得を図る。

苦肉の策が功を奏す

事務局の労力の不足を補うための苦肉の策ではありましたが、思わぬ効果を生み出しました。

- ・生産者が主体的にJGAPに取り組むようになった。
- ・JGAP認証取得農場の知識や意識が向上した。
- ・生産者間でのコミュニケーションがスムーズになった。
- ・チームワークが上がり、一体感がでてきた。
- ・未取得者への取得誘導がスムーズになった。

その結果・・・



まとめ

令和6年8月24日付けで南郷トマト生産組合は全農場でJGAP団体認証を取得いたしました。

取組開始から6年が経過しました。

令和元年 31名

令和2年 23名

令和3年 8名

令和4年 15名

令和5年 12名

令和6年 18名



南郷トマト生産組合が全農場でJGAP団体認証を取得したことは、生産者にとっても大きな自信となっています。そして、全戸で認証取得したJGAPを運用・活用することは、生産者が自らの産地を守り、「100年産地」を目指す南郷トマトが、今後も消費者に安心して選ばれることにつながると考えます。農産物の安全性への市場価値・関心は今後ますます重要視されることと考えます。南郷トマトは“これまでもこれからも”様々な方策を駆使して取り組み続けます。



ご清聴ありがとうございました。